

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

平成30年11月19日

釧路市議会議長 渡辺慶藏様

会派名 自民クラブ

代表者名 草島守之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	高橋 一彦 戸田 悟
出張先	東京都豊島区、長崎県東彼杵町、栃木県宇都宮市、茨城県石岡市
期間	平成30年11月12日 ～ 平成30年11月16日 (5日間)
用務	豊島区行政視察、全国鯨フォーラム2018、全国市議会議長会研究フォーラム、石岡市行政視察
調査(研修)結果等の概要	別紙のとおり
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

## 視 察 報 告 書

- 11月12日 国際アート・カルチャー都市構想  
東京都 豊島区役所
- 11月13日 「全国鯨フォーラム2018東そのぎ」  
東彼杵町総合会館文化ホール
- 11月14日 「全国」市議会議長会研究フォーラム」  
15日 宇都宮市文化センター
- 11月15日 石岡市「ふるさと納税」  
石岡消防署3階会議室

参加者 戸田 悟 高橋 一彦

# 「国際外・加知-都市構想について」……(文彦 少田 悟)

視察日……平成30年11月12日(月曜日)

視察地……東京都豊島区

視察先担者……豊島区政策経営部 国際外・加知-都市推進室 馬場晋一氏。  
豊島区政策経営部 国際外・加知-都市推進室 澤田建司氏。  
豊島区政策経営部 国際外・加知-都市推進室 浅見尚史氏。  
豊島区議会議務局 議会議務課 総務官 松村 隆氏。

視察参加者……高橋一考・少田 悟。

豊島区国際外・加知-都市構想について勉強を怠らなく訪問し、従って早到着から、議会議務局 松村隆氏の配属で議会棟を含め視察内容(運動場など)は一見限りなく分かる。地権者の関係から高層マンションとの複合型の施設建設と森としての表現が、高木並の緑木と雨水を循環して川を流し、川を水槽に入れて子どもたちの遊び場や環境工作、都市の中に緑と自然の空間を整備、その居住者の公園と利用可能な環境を構築し、誰もが主役になれる、おどろきと入口滑り台がある子供いすの地帯が、豊島区が理解するに値する施設建設であると、議会には、これ将来の見据え機能と勝算を左右する議案内全部見直しを配置して、環境(治水)馬場晋一室長の説明から、高野文夫豊島区長の信念と決断により、平成26年5月に巧区で唯一の「消滅可能性都市」としてこれを「日本の課題」と捉え直し、「持続発展都市」への転換を「日本の挑戦の一翼」と担う政策方針として、平成27年3月には、「国際外・加知-都市構想」の策定が豊島区が明確に打ち出した将来像として、「おどろき舞台の誰もが主役になれる劇場都市」……新庁舎整備が連鎖的に広がる池袋副都心の再生は、新都市再生緊急整備地域、国家戦略特区の指定を受け活用しながら日本の国際競争力を担う国際外・加知-都市と大きく変わる。旧庁舎跡地には、池袋に在る8つの劇場を含む国際的的文化と、おどろきの拠点も誕生する。池袋駅西口の4つの公園では文化芸術の「遊び」の創造も各公園と防災歩行者空間の充実に向け。







2020年中間目標「文化基軸」を軸にまちづくりを推進。数ある文化都市の中で、他都市にない豊後国ならではの「外・加保」を展開。新たなまちの魅力と発展を遂げる都市として、都市構想のビジョンを継承し、まちづくりを2020年以降も持続発展する都市を目指すべく詳細を構築してきた。1年間を暮らして世帯と女性の多くを含め、各年代別に適切な現在の年間10,000人強の人口増とある。都市機能と都市再生・安全な都市地区と比べて劣る点、この要因をある程度把握し、現状を把握し、今後の課題を判断できる。

視察をきっかけに非常に意義は大きく、金路市が東海道の拠点都市としての役割を果すべく市民の安全安心と「喜ぶ」ことができる環境を整え、次世代への継承と周遊的なまちづくりと展開を促すまちづくりを進めている。新都市計画整備とまちづくりの転換期において大胆に進んでいくこと詳細にわたる各専門分野で活躍している方々の意見と発想の集大成と活発な内容や目的・目標と将来のまちづくりを明確に展開する。外・加保を軸に今年、東海道の拠点都市としての金路市を明確に「エンジン01」(名を連ねている有名人と国際外・加保、都市構想の展開)に関する。今度大規模な視察を持って視察力と中心年を定めた自治体(入札)があり、管内にある金路市と連携・市民並み経済界・市民並み子育て支援協働体)を軸にまちづくりを推進し推進するこの重要で、貴重な視察をぜひぜひ受けたいと意義があり、まちづくりの今後とある内容の視察であった。

## 全国鯨フォーラム2018東そのぎ

江戸時代、長崎街道の宿場町として、また近海で獲られた鯨の集積地として、発展を遂げていた、東そのぎ町、鯨組を率いた深澤儀太夫は捕鯨で得た私財を投じて鹿ノ丸池、中池、三井木場池、四ツ池の農業用灌漑用水などを整備し、当時の新田開発が現代の豊かな農業振興と自然環境に寄与している。

さらに現在も鯨料理が食卓や宴会に並ぶなど、鯨料理は日本各地域に根付いており、固有の食文化を築いている。

江戸時代から明治にかけての数百年間は鯨肉取引の中心地として栄え、ここに陸揚げされた鯨が九州各地へおくられていた。

鯨が東彼杵町にもたらし、これからももたらし続ける数々の「恵み」を柱となるコンセプト（歴史、流通、食）を通じて全国各地に鯨食文化の継続と鯨類の消費拡大に向け、毎年取り組んでいかなければ日本固有の食文化が廃れてしまうと思われる。

### 商業捕鯨の未来

#### \*第67回IWC総会議長を努めての報告\*

東京海洋大学 森下文二

2018年9月10日から14日まで、フロリアノポリス（ブラジル）に於いてIWC第67回総会が開催され、日本の提案として鯨類の保護と持続的利用の両立と、立場の異なる加盟国の共存を討えた本提案について、持続的利用支持国が「これがIWC機能回復のための適切な対応である」などと支持を表明したのに対し、反捕鯨国は「商業捕鯨につながるいかなる提案も認めない」、「IWCは保護のみを目的に（進化）しており、モラトリアムの解除は一切認められない」などとして、強硬に反対を表明した。



投票に付された結果、賛成27票、反対票41票、棄権2票で否決されました。

21世紀の鯨類の保全と管理におけるIWCの役割に関するプロリアノポリス宣言に関する決議。反捕鯨国からは、「同提案はIWCのビジョンを示している」などとして、支持が表明されたのに対し、持続的利用支持国からは「本決議は捕鯨取締条約の目的のひとつである捕鯨の持続的利用を無視している」として、反対を表明。投票の結果。

賛成40票、反対27票、棄権4票、(我が国は反対。)

今後の問題点として、1点目、商業捕鯨再開にはIWCにおいて「4分の3」の賛成が必要である。2点目、科学的根拠に基づく議論が成り立たない、反捕鯨国は鯨の資源が豊富であっても捕鯨に反対。3点目、文化論には通用しない、反捕鯨国は捕鯨文化そのものに反対。4点目、鯨食の機会減少が国内での無関心、支持低迷につながっている。5点目、過去の乱獲の歴史や反捕鯨団体の宣伝により、捕鯨は悪いものであり、国際的に禁止されているというイメージが固定されている。

#### IWC脱退による商業捕鯨再開

IWCを脱退しても自由に捕鯨ができるわけではない、南極海については南極条約等の規定により捕鯨が認められていない、IWCに代わる新たな国際機関の設立が必要ある。

公海、200カイリ水域、領海内での操業は可能である。

釧路市は現在、秋に鯨の試験操業を実施しております。市民に対しても学校給食、鯨スタンプラリーなど、鯨の食文化を継承しておりますが、市民に対して「鯨の歴史」、「鯨がもたらす恵み」、「鯨の多面的活用と地域づくり」をもっと全国各地と連携して交流を深め強力的に推進を図って行かなければ鯨の食文化が失われてしまうと思われる。

又、科学的根拠に基づく議論が成り立たないなど、IWCに於ける日本の考えをいかに反捕鯨国にいかに理解してもらえるか知恵を注がなければ商業捕鯨の道はひらけない。

# 『全国市議会議長会研究不-私』……(文責 少田 悟)

研究不-私参加日……平成30年11月14日(木曜)・15日(木曜)

研究不-私参加地……栃木県宇都宮市 (宇都宮市文化会館)

研究不-私実施者……第13回全国市議会議長会研究不-私実行委員会  
(主催 全国市議会議長会・後援 総務省)

研究不-私参加者……高橋一孝・少田 悟。

本研究不-私は、全国の市区議会議員が一堂に集い、共通の政策課題等に対する情報や意見の交換を行い、地方分権の時代に対応した議会機能の充実に資する地域づくりを目指す。と目的し、平成18年度から毎年開催されてきた。第13回目となる今回は栃木県宇都宮市において平成30年11月14日(木)・15日(木)の2日間にわたって開催される。

議会制民主主義による住民自治の確保という極めて重要な機能を担っている地方議会は、議員選の投票率は低下傾向にあり、特に小規模市町村において、地方議会議員のなり手不足の局所が顕在化し、選挙と選挙間には起る自治体と出る事態となっている。地方議会では議会改革の一環として、議会報告会・休日・夜間議会と子供女性議会の開催など、住民代表としての機能強化と積極的推進を図るが、いかに住民に身近で魅力的な存在となっていない面があるのではなかろうか。

住民意向と酌を取り、執行機関に対する監視や政策提言等を行うといった、議会本来の役割に対する住民からの信頼を高めるためには、議会と多様な価値観や意見を持つ住民と身近な存在を取り組むことが以上所ていく必要がある。今日の不-私では、平成31年に実施される統一地方選挙と控え、地方自治の基礎である議会への住民との関わり、どうすれば住民の議会に対する関心を高めることができるか、各方面からお招きする講師の方々とは出さず、活発な意見交換や討議し、今後の課題解決の助けとなるようには有意義な不-私にしたいと考えている。自己啓発・自己研鑽に努めて頂くと、山田一に会長の挨拶あり、開催地への挨拶は小林経夫宇都宮市議会議員の歓迎の挨拶並に佐藤栄一宇都宮市長の歓迎の挨拶と2人が連携し、ホト型2対外派を並べ、地味な公共交通とLRTで結ぶ2022(東)運行。自力で生活する若者に負担をかけるわけない。宇都宮は、子育てが楽な街と沢山の街下り

最近最大の出身地であることが、昭和28年9月、加予村に参加し、一躍脚光を浴びた。沿革により、今日の「加予街道」があり、毎日バスが往来し、2020年以降のバス制バスの外からの開催地は決まらぬ。飲食、食の集いの頂上有意義な研修旅行と最終の午後からの相談は是非、新館を見学し、良き知の頂上集いの頂上有意義な研修旅行。

第一部 基調講演は「地域共生社会」とどうするか……2040年を越える自治体の今後の課題で、尾本太郎 映像法新教授が話をする。研究が実践に結びつく。その結果としての取組に表すことで説明。加予地区の地域での重要事項と漏れぬ2040年問題。少子高齢化と財政的「おとし畜」のあり方、「必要経費」の削減、知識と技術の不足、人口の減少、自治体の役割の大きい。部局の縦割りを越え、包括支援の場作り。雇用の部局と地域企業との協力を支援する。『おとし畜』のメカニズム（これはバリエーション）『地域づくり』、居住支援協議会を設置し、戸建を70%に地縁づくり等々を結ぶ。地域共生型社会の構築に向けて、鹿島市が中心。新館での生活支援。シニア（高齢者）の生活の標準の説明は、基調講演であった。

第二部 パネルディスカッション……議会と市民の関係について

- コーディネーター 江藤 隆雄… 山形大学大学院教授・法務教授
- パネリスト 今井 照… (公) 地方自治総合研究所 主任研究員
- 本田 節… 有限会社 子助亭 代表取締役
- 神田 誠司… 朝日新聞大阪本社 地域報道部記者
- 小林 勉次… 厚狭市議会 議長

コーディネーターから新しい価値を創造する市民と行政の連携と統合の地域政策（NPOを含む）市民の活動の重要性と議会の役割を發揮する自治体の役割の不可欠である。基礎自治体の運営と現実の多様性は自治体独自では対応できない課題がある。自治体の推進がこれだけの地域連携と市民と議会は不可欠の役割が必要。この課題にどう検討していく。公共施設の統合問題の両方がある。「住民自治の根幹」として見られる議会の創造。今日問題となっている「議員の不足」問題の解消の途を探る。これは市民の意見と提言を後方から確認していくことと進行していく説明。自己紹介進行

● 本節... 推進活動・神田議員... 議会改革・小林悠夫... 地方議会の... 今井照... 大町の職員の水準を上げる。20年前の地域課題... 行政と議会の関係にスプレッドシートで発言を求む。本節... 職元年の50周年を記念し市議会(最初)の敗北の経緯を語り、知後、日本国を目的として政府の根本を意識し、行政が中心となり、人減りの少子高齢化の中で母知人の団結(女子力・主権)を築き、20年前に6次産業化を具現化し、郷土の家庭料理「ひよりの亭」を創業し、「おっかない」... 10を強ひ、ついで「月替り御膳」... 産者の集り... 「新築の宿」... 「キッパル」で全国、築地、被災地、支援の活動を進める... 地方のネット、自己啓発と自己。20年前から全国で女性議員は増えているのか？

● 神田議員... 地方議会は良心を以て「書けない」... 私は不承不承と言... 良悪い両方に書き、島根県のみ知事と「文民会議」... 15人位で50代女性を若い。県議会と大差が出た。議会は高齢者の集まり、若人の子育ちに関する心分からないと判断し、考え方、男性中心で、中高年齢であることから若者の考え方に... 栗山町の議会改革... 資料の整理を依頼。20年前から与野党の議会の関係は... 行政主導は... 社会的は出直し合の... 年齢構成においては若人は働いていない職業に就くことが出来るように考えるべきではないか？

● 小林悠夫... 議会改革の結果は政策能力の低下と様々の中... 議会は数権を握っていない。今までは基本的に表われない... 二元代表制(知事2年任期と国政4年任期)... 米国の代議士制は、議院内閣制を取っている。日本はいまだに... 両方の結核の火種... 地方の制度見直し。20年前からの選挙制度の考え直しの方向。30代は政治的。地方は議院内閣制。地域は議院内閣制で議院の現行は？ 小林... 施策の多様性を考えて進めたい。

● 今井照... 自治体政治の熱量を上げる... 「市(議会)」の特徴... 「自治体の未来は若者の著書無投票選挙の若者は比率が低い... 市民意識と協力できる余地がある(10%)か。2016年1年間に法律による市町村合併を求め、新設を求め、法律に基づいて設置は10年以内は是非「難しい」。世帯単位に流れて自治体議会を議論、選挙で選ぶ幅が小さくしている。20年前から中央集権的であった。地方議会は国政に比べて合併は進み、負債は増え、夜は

人口・地域住民との関係が変質的にあるものではないか。これは難しいところではないか？

今井... 機能的活動と知的活動に依るものは本来から量的対立とあるには非対称に相関がたつる法律上の計画なのか... 三ツ川... 添って所々には厚みがあるが、生じたい。

三ツ川... 行政計画は何かと難しいですね。今井... 難しいです大層ですね。

三ツ川... 住民と議会との関わりを進めたい... 具体的に進めるはどうか？

● 本田節... 30年前の未来をイメージで進めると、議会改革を進めたいのはいいが... 住民サイドから考える新しい大工場のあり方... 議会以外... 「地域課題が現る」、「人材の育成」、「体制が」、「お金の使われ方」、「誰が」、「具体的に活動して」、「目指すのは」、「議会の役割が厚みがあるものをイメージする。自治体... 議会と住民が「信頼」はいていなければならない。彼が信頼する議員は、議員としての人格・使命感、住民自治の根幹に議会人としての情熱。

三ツ川... 議会はしつかり住民中心にやってほしい... 議会と民との関わりを進めるのが大事？

本田... 住民側への負担を減らすこと、住民側の負担を2040年に向けて減らすこと

● 今井照... 地域中心の実際の政治が難しくなる。統量を下げざるを得ないことを減らしてやること。議員はどうかとある人は不思議である... ミツ川... 持たせている... 若人の政治嫌いの「様々事と嫌々」... 「争々事とととんば良い」... ミツ川... 持っている人は、住民側の魅力が落ちているのは、三ツ川... 三ツ川... 最近？ 今井... 最近でいい。

● 小林絶次... 取り組むは進める。毎年、県議会と市議会とを違っている環境。1回の選挙で人数は10人以上... 府議会では45人 → 70人まで増やして代表を置く。議員は住民に近くはほしいととつて、力強く減らすこと。

三ツ川... 45人にと一部比例代表制が地域代表制で、4名と5名とある？

小林... 統数を検討はしていないとあれば、実施を検討している。

● 神田誠司... 根の意を生きて努力して姿勢が見えと一体とあるのは、視野を広げることで、毎年度別に、分けて整理がとて出来る。選挙は大に集めて、部外は成長出来る結果が出る。新聞折込み、議会中心。三ツ川... 議会改革... 外見から新しい見方は... どの人でも、どの考えの人でも、物は聞くこと大事... その教訓的がある。\* 必要なのは関心力... 議会の距離... 選挙投票... 70歳。とまじり一日の生活に終わる。

# 第4部 課題討議……議会と市民の関係について

- 2. 予不 江藤 俊昭... 浜松大学大学院研究科長・法新教授
- 事例報告者 桑田 鉄男... 久慈市議会副議長
- 伊藤 健太郎... 新潟市議会議員  
新潟市議会主催者教育推進プロジェクト
- 比次乃仁... 大山市議会議長
- 道法 知江... 竹原市議会議長

2. 予不から昨日は、視点を交えて進める。投票率の低下、189字根の論点を深める。一言添えて自己紹介。●桑田鉄男... 議会改革と議水2人から正副議長と正副議長が一体となって取り組むこと。●伊藤健太郎... 主催者教育推進プロジェクトは若手中心で議水20以外で。●比次乃仁... 本人は「市民参加と議会機能の向上」に取り組んでいる。●道法知江... 市民参加型を竹原市で実践し、自ら自身の経験したこと、女性の視点で事例となる角度を変えて女性の視点で進める。

2. 予不より時間の限られる中、順次事例報告をお聞きしたい。

- 桑田鉄男... 入道後、低い職25年4月11日朝「おれん」の職である。2010年~2014年に議会改革を進め「議会はじは基本条例・市民と議会の協働の場」「市民会議」議会ICT化(9/10端末)導入、緊急時情報連絡、地域情報。議会報告会、休職から退職後、入道・2017年>2018年>2019年>2020年 警戒心・無関心・勘違い・手探り親世代・親・根拠と超え、勇気、特別議合の場、「市民会議」期限満了の課題を改善。対話形式... 市民参加形式... 対話形式... 市民参加の会議形式が今よりも良い会議手法だと... 後市議会議員には本人がいる。

2. 予不から基本条例は「なれの転が良。市民参加の会議は如何か? 旧日... 対話「継続と検討」市民と議会が協働の場、市民参加を目標に進めて...

- 伊藤健太郎... 90以外の30分は職25年の選挙、初選選出13名、平均年齢の若手からあつたのにより議員の若年層と協働と主催者教育を進められたこと、選挙、高橋三義議員のサポートで議会の状況を改善し決定。職25年2月29日、全議員対象の勉強会開催

平成28年5月27日、研修会の開催。中学生と高校生は、日頃より課題を一緒に考え、教育委員会と選挙管理委員会とで取り組む「主権者教育」に関する新潟市議会への対応について

平成28年6月7日、実行委員会並み。6月14日には新潟市議会主権者教育推進プロジェクト会議第1回会議を開催。平成28年12月21日には、市立新潟高専併設教育学校にて初回の模擬市議会開催。合意形成の目的以外に、生徒の議長・議員・職員役には、又別の場で合意形成と意見発表を並行して実施。平成28年度4校322名の生徒、平成29年度4校225名の生徒に実施。議会と市民の周知と入会を促し、教員の負担軽減等を考慮している。

2. 5分間自由発言の意義。新潟市の教育現場での実践の意義と課題についてどう考えようか？……

● 5分間自由発言… 権限の限られた議員の三つ… 「議員周討議」議員間討論の場。市民の「政策案・政策提言の提出」が議案提案の場。市民の「市民提案」が議案提案の場。市民の「市民提案」が議案提案の場。市民の「市民提案」が議案提案の場。

「女性議会」平成29年2月14日開催。平成29年度「女性議員」公募10名が参加。模擬議会と一般質問の併行開催。市民の「市民提案」が議案提案の場。市民の「市民提案」が議案提案の場。市民の「市民提案」が議案提案の場。

2. 5分間自由発言の意義と課題。新潟市の教育現場での実践の意義と課題についてどう考えようか？…… 5分間自由発言… 正副議長、議会事務局、議員、市民の「市民提案」が議案提案の場。

2. 5分間自由発言から女性議会をどう作るか？  
● 道法知江… 新潟市 面積118.23km<sup>2</sup>、人口257,399人。今年で市政60周年。新潟市出身の女性議員は平成27年24名、平成28年24名、平成29年14名で女性議員は2名… 1997年、時子文親の交通事故死。母親1人育ちの商売の母、女性蔑視の社会の中、新制制高校は







## 石岡市「ふるさと納税の取り組み」

ふるさと納税が始まった背景には労働人口が都市部に集中している現状があります。

地方で生まれた場合、故郷の市町村の自治体が提供している医療、学校や福祉などの住民サービスの恩恵を受けて育ちますが、その後、進学や就職を機に地元を離れてしまうと納税を行う先は就労した時に住んでいる自治体となつてしまいます。

そうすると、地方の自治体サービスを提供するばかりでサービスを提供するために必要な財源である各種税金を納税してもらえません。

そういった背景から自分達を育ててくれた故郷である自治体に対して自分の意思で納税できる仕組みがあってもよいのではないだろうか、と言う問題提起が起き、制度化され「ふるさと納税」と言う名前になりました。

「納税」という言葉が使われていますが実際にお金を納めるという形ではなく、寄付金の扱いとなります。

また、出身地や居住した事がある自治体に限られるわけというわけでもなく、自分で自由に選んだ自治体を寄付先に選ぶ事ができます。

各自治体の考え方や現状、寄付金の使用目的などを見て応援したい所に寄付する事ができます。

石岡市は茨城県のほぼ中央に位置し市域の北西部に連なる筑波山系から南部の市街地になだらかな丘陵地が広がり、市北部から東南端へと流れる恋瀬川は日本第二位の面積を持つ霞ヶ浦そそいでいます。

石岡地区は昭和レトロな建物が今も街に息づいていて、水の豊かさを生かし酒づくりが盛んにおこなわれており、また、9月に開催される「石岡まつり」は関東三大祭りとして多くの観光客を集めています。

- 1 生活や文化の中心地として、活気あるまちづくりに関する事業  
教育環境充実、中心市街地活性化、企業誘致、各プロジェクト
- 2 心豊かに生活でき、誇りに思える街づくりに関する事業  
地域の魅力をアップ、観光・交流推進、農林業振興、各プロジェクト

- 3 健やかに暮らし、生涯現役で活躍できる街づくりに関する事業  
子育て応援、生涯現役、安心・安全、各プロジェクト
- 4 その他、市長が必要と認めた事業

石岡市では「ふるさと納税」の担当職員を置き、職員自らパンフレットを作成し出来るだけお金をかけずに知恵を出して取り組んでいたことに大変驚きました。又、特産品だけではなく、「見守り訪問サービス」郵便職員と提携して毎月1回訪問し、生活状況を確認し、その結果をご家族へお知らせする事業、「空き家」見回りサービス、年3回から4回、なかなか帰る事の出来ない方に代って石岡地方広域シルバー人材センターの会員が空き家の見回りを行い清掃などをする事業、古民家を利用したゲストハウス宿泊券、その他、チーズ作り体験、ゴルフプレー券、パラグライダー利用券など、大変ユニークな返礼を職員が独自で考えていて「ふるさと納税」をする方が増えています。釧路市は合併してから毎年約1800人、人口が減る中、地方交付税も減り続けている状況であります。隣の白糠町では年間30億円の「ふるさと納税」があり、それを利用して給食費、こどもの医療費の無料など若い家族の子育てに使っています。石岡市でもそうでしたが管内の特産品を活用するのではなく釧路市独自の返礼品とユニークな事業を考えるべきとおもいます。いかに財源確保するか、又、併せて全国各地の自治体が行っている先進的事例も参考にし増収に努めていくべきと考えます。



東京都豊島区  
副区長  
11月12日(月)  
国際ア・十・カチャー  
都市構想について



全国市議会議長会  
研究フォーラム  
11月14日 宇都宮にて



全国鯨フォーラム 2018  
長崎県 東彼杵町にて  
11月13日